

学生企画 大人の修学旅行（京都）



新しい視点で「京都の旅」を企画した同志社大学の学生たち。
講師の青柳良明さん(中央)は前京都府の観光室長だ。

新年早々、観光都市・京都にまったく新しい視点の観光ツアーが登場する。企画したのは同志社大学のプロジェクト科目「京都形ニューツーリズムの開発と流通」を受講する学生たち。

今春から企画を始めて9カ月、現地調査や地元の人たちとのコミュニケーションを重ねた結果、年末にモニターツアーとして販売されることになった。

この間の学生たちの取り組みの様子を、地元タウン誌「Leaf(リーフ)」が連載して応援し、旅行会社、ツアーランドがほとんどボランティアでツアーの売り出しを決めた。

こうした地元の支援を受けて、国土交通省もニューツーリズム創出・流通促進事業実証事業として認定した。ツアーのターゲットは「自分たちのお父さん世代」に絞り込んだ。「日ごろの忙しさから離れて心身ともに癒やされ、元気になる旅を企画しました」とメンバーの一人はいう。

ツアールートには、これまでほとんど京都観光ルートに登場した事のない京都府井手町と和東(わづか)町を選んだ。いずれも豊かな自然に恵まれた山里で、宇治茶の一大生産地・和東町には一面、茶畑が広がる。いかにも“癒やしの地”といった情緒が漂(ただよ)う地で、昔から「山(やま)背(しろ)古道(こどう)」と呼ばれており、さっそくツアーのタイトルに拝借した。

ツアーの名称は『大人に来て欲しい！手づくりの修学旅行。3泊4日 京都・山背古道で心と体、深呼吸。QOL向上の旅』。少し長いが、学生たちの熱意が感じられて好ましい。特に「QOL(クオリティ・オブ・ライフ=生活の質)向上の旅」には“新しい京都観光”の意味を込めた。竹炭づくりや薬膳料理教室など、ほとんどが京都郊外の自然を体験するメニューで構成されている。

「寺社仏閣ではなく、京都府域の観光に多くの人に関心を持ってもらい、地域のやる気が向上してほしい。そして京都観光のイメージが拡大するのを期待しています」というのは同科目の囑託講師、青柳良明さん。青柳さんの本職は京都府商工部観光コンベンション室の室長だ。京都府と大学の観光開発への“本気”が垣間見える。世界の旅行会社がこぞって企画販売する「京都の旅」。

大学生の企画をツアー化するのには京都初の試みという。実施日は新年1月11日から14日。成功すれば「今後の旅行商品」として、国土交通省から全国の旅行会社に紹介される予定だ。